

2019年3月16日

立教大学国際学術研究交流制度
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

| | | |
|--------------|------|---|
| 受入 教員 | 所属・職 | 法学部・教授 |
| | 氏名 | 倉田 徹 |
| 受入学部・研究科・研究所 | | アジア地域研究所 |
| 招へい 研究員 | 所属・職 | Professor, Department of Public Policy, College of Liberal Arts and Social Sciences, City University of Hong Kong 所属機関所在国：中国（香港） |
| | 氏名 | Ray Kin Man Yep |
| 招へい期間 | | 2019年3月3日～2019年3月16日（14日間） |
| 研究経費 | | 227,015 円 |

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

| 年月日 | 活動内容 |
|-----------|--|
| 2019.3.3 | 来日 |
| 2019.3.7 | 科学研究費補助金基盤研究(B)「香港に見る中国的価値観の受容と抵抗：周辺地域への示唆」（代表：立教大学教授・倉田 徹、18H03452）の研究会に参加。 立教大学アジア地域研究所研究セミナーにて講演。タイトル：「The 1967 Riots in Hong Kong: The Confrontations and Long Term Impact on 1997」、会場：池袋キャンパス 14 号館 D602 教室、参加者 30 名 |
| 2019.3.9 | 立教大学アジア地域研究所 20 周年シンポジウム「雨傘運動後の香港」にて講演。 タイトル：「Dictator's Learning Curve: Legal Approach against "Hong Kong Separatism"」、会場：池袋キャンパス 11 号館 A203 教室、参加者 70 名 |
| 2019.3.14 | 立教政治学研究会にて講演。タイトル：「Rural Urbanization in China: Impact on Local Governance」、会場：池袋キャンパス 12 号館法政文化研究室、参加者 7 名。 |
| 2019.3.16 | 離日 |

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

3月7日開催の科学研究費補助金基盤研究(B)「香港に見る中国的価値観の受容と抵抗：周辺地域への示唆」研究会では、葉教授に香港史における日本の位置づけについての大学院生の研究報告にコメンテーターとして参加を賜り、研究方法や知識の面で様々な指導をいただいた。

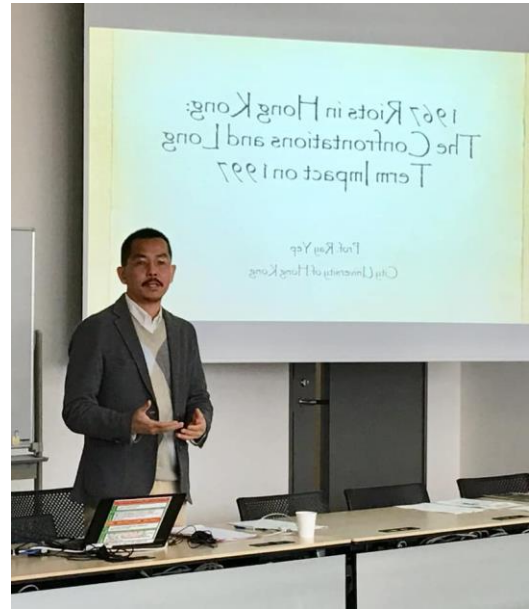
それに続く同日のアジア地域研究所研究セミナーでは、1967年に発生した香港暴動の研究の第一人者として、この暴動がどのような性質のもので、その後どのような影響を残したかについて、詳しくご講演頂いた。暴動の後に、イギリスが社会福祉を拡大するなど、香港の統治の方式を変更したことは香港研究で一般的に論じられているが、葉教授のご報告では、左派の退潮と、それに伴う人材の不足、そしてそれを補うために財界人などとの新たな同盟関係を中国が結ぶといった、返還後の現在に到るまで影響を及ぼす大きなインパクトがあったとの議論で、大変新鮮であった。参加者は学内外の研究者と大学院生で30名に達し、大変盛況で、終了後も活発な意見交換がなされた。

3月9日開催のアジア地域研究所20周年シンポジウム「雨傘運動後の香港」では、他に香港から2名の研究者（鄭煒・香港浸会大学政治・国際関係学系助理教授、袁瑋熙・嶺南大学政治学系助理教授）も招き、葉教授を含む3名に、現在の香港の政治・社会の状況についてご報告頂いた。葉教授の報告は、雨傘運動後に政府が法的手段を巧妙に用いることを学び、社会運動が大いに打撃を受けていることを論じた。本シンポジウムは一般公開の形式でこない、ウェブサイトにて一般の参加を募集したところ、定員を上回る申し込みを得た。会場には学外からも多数の来聴者を得て大盛況であった。終了後は質問が途切れず、時間を延長して開催した。

3月14日の立教政治学研究会では、中国の農村で住宅の高層化が進んでいる理由について、中国独特の土地制度の変遷から論じて頂いた。日本では極めて情報が少ない中国の実態について、現地調査に基づいて、写真なども交えて紹介して頂き、政治学科の教員や学生からも質問が多く出て活況であった。

このほか、学外でも多数の中国・香港研究者との意見交換や、セミナーなどに参加して頂き、今後の研究上の協力関係のための基礎を拡大することができた。今般の招聘により、学内外の日本の中国・香港研究と、香港の研究の間での協力関係が強化された。

<公開セミナー・シンポジウム等の様子>



(特記事項) 本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。